

令和4年1月9日

南の風 2021 ウィンターカップ特集号Ⅲ

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

ウィンターカップ特集号の続きです。

前半のスタッツを見ると、京都精華の2P シュートの確率の低さ（9/31 29%）は、シュートミスというより、桜花のディフェンスの当たりの強さが要因だと思います。リバウンド京都精華 25、桜花 16は、留学生2人の高さ、強さでした。しかし、両チームともリバウンドへの執着心は、ボールを取る、取れないにかかわらず、非常にはげしいものがありました。

後半に向けて桜花は、相手の2人の留学生を朝比奈選手がどこまで抑えられるか、またオフェンスのシュートの精度をしっかり保つことができるかが課題になると思います。

京都精華は、2人の留学生が桜花の激しいダブルチームをかいくぐり、得点をどこまで伸ばせるか。また瀬川選手の3P シュートの確率と、1年生コンビの活躍が前半のように続くかが見どころです。

《第3Q》

入りはトランジションから走った京都精華の瀬川選手が、この日4本目の3P シュートを沈めてリードする。桜花はオフェンスの流れは悪くないが、朝比奈選手がウチ選手の高さに阻まれシュートが決まらない。それでもトランジションでよく走り、左ローポストでボールを受けた朝比奈選手が、逆サイドから飛び込んだ横山選手にオーバーハンドパスして得点する。

京都精華はウチ選手にボールを入れるが、桜花の素早いボディアップのダブルチームでシュートが落ちる。桜花はインサイドから外に返すボールを横山選手がカットしてドリブルシュートに持ち込む。落ちるシュートを平下選手がフォローしてジャンプシュートを決める。

京都精華はウチ選手に代えて、15番ジェシカ選手が入りボールをインサイドに集めるが、執拗な桜花のディフェンスにシュートが打てない。トランジションから桜花は走り、平下選手が3P シュートを確実に沈める。（桜花37対京都精華33）

流れを変えたい京都精華は、ジェシカ選手が右ウイングからペイントドライブを仕掛け、朝比奈選手とコンタクトしてスペースを取ってジャンプシュートを決める。桜花は横山選手が左トップサイドからドライブで侵入してファウルをもらう。（ジェシカのファウル3つ目）フリースローが1本入る。さらに桜花は、平下選手が絶妙のパスカットからドリブルシュート。惜しくも外れるが、スローインから再びパスを受けてジャンプシュートを決めた。（40対35 桜花リード）

オフェンスの重たい流れを戻したい京都精華は、ジェシカ選手に代えてウチ選手を入れる。ここでリバウンドをがんばり、ハ木選手のキックアウトパスを受けた瀬川選手が、右ウイングからこの日5本目の3P シュートを見事に決め、桜花の流れをくい止める。

桜花もすかさず、横山選手がゴール下から右ローポストに行く振りをして、ターンして左ゴール下でボールを受けシュートを決めた。パスを出した前田選手との合わせは抜群で、たいへん質の高いプレーであった。京都精華はウチ選手に代えてジェシカ選手を投入する。その直後、左ウイングでボールを受けたハ木選手が、緩急をつけたドリブルからスペースを突き、見事なステップインシュートを決める。

両チームの意地がぶつかり合う展開となる。（42対40 桜花リード） 3Q 残り4分55秒。